



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 2 月 24 日(金)
能代市自治会連絡協議会研修会 編

毎年この時期に行われる能代市自治会連合協議会研修会。今回は昨年の大東日本大震災発生を受け、地域防災をテーマに開催されました。

基調講演はもちろん、渡辺千明先生。先生の専門分野は木質構造、木の文化、地域防災。そして、我々NWの事務局。震災以来、調査や復興支援に尽力をされ、大変お忙しい中、無理やりお願いした次第です。

この研修会で先生に講演をお願いするのは、実に3回目。講師依頼の中では最多ではないでしょうか。「まちづくり」結果「防災」という視点が、現在必要とされ重要なものであるにも関わらず、浸透、拡大、実践が難しく、進まない故の大抜擢と思われる。先生にビシッと指摘していただき、喝を入れていただかないと能代はシャキッと出来ないように思うのですが・・・(内緒、内緒)。

そんな訳で、出席者はほとんど自治会長さん。市内には自治会が266ありますが、そのうち110人ほどの出席。パネルディスカッションには自治会連合の佐々木幸一会長も登壇するのですから、もう少し多くの出席があっても良いと思うのは私だけでしょうか。無関心ほど怖いものはありません！

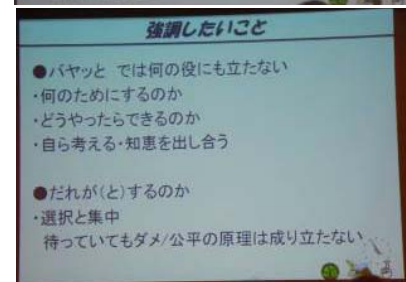
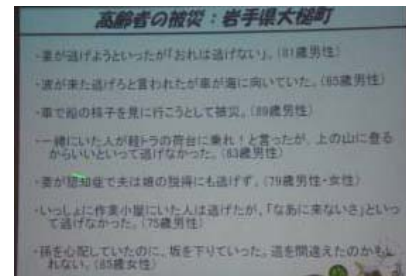
まず、渡辺先生に「震災に学ぶ能代の防災まちづくり」の演題で講演していただき、行政が行った対策(情報も含め)を住民がどう対応し、活用していくかが大切であること。また、毎年実施している上町自主防災訓練の内容にも触れ、行政を待たずに災害対策を考えることや普段の地域での付き合いや話し合いが重要であることも指摘。居住範囲の身近な企業との連携も必要であることをお話し下さいました。

パネルディスカッションでは渡辺先生がコーディネーターを勤め、佐々木幸一会長、加賀谷七重さん(男女共同参画推進委員長、鈴木信宏さん(能代市社会福祉協議会支援員)、落合鎌彦(能代市総務課防災危機管理室長)の4人がパネラーとなり、地域の実態把握、普段からの話し合い、女性の視点考慮、避難所の整備などそれぞれの立場からたくさんの課題が出されました。全ての人が震災直後だから真剣に考えられるこの機会を無駄にせず、とにかく実践を試みる行動力を身につけて欲しいと切に願います。そうでなければ、このセミナーの意味がありません！！少子高齢化は全国共通の課題です。全てやる気です！

セミナー終了後のアンケートは出席者110人中、回答者64名(回答率58.1%)。震災後新たに行った防災対策→ある20ない41 町内で防災活動をしている→している15していない49 町内で実施してみたいと思う内容で一番多かったもの→ブロックごとの避難訓練32 講座に参加して、家庭、職場、地域で取り組んでみたいと思う事がありますか→ない4 ある33 取り組みたいが実践は難しい12

皆さん、どうぞ、上町自主防災訓練に来てみて下さい！やればできることが分かっていただけだと思います。最初の一歩をみんなで踏み出しましょう。

文：能登 祐子



見慣れた人には見慣れたスライド。大槌町の亡くなられた方々の状況や防災訓練の際に考えておくべきことなどが紹介されました。



大船渡市の被災状況写真や能代市の洪水ハザードマップ、非常食などを皆さんに見ていただく展示コーナーも設けられました。



4人のパネラーの幅広い話題提供のおかげで、能代では珍しいことに会場からの質問が続きました。